

6月17日は立川市議選の投票日

# 山本 ようすけ

27  
歳

無所属

yamamoto-yosuke.com

山本ようすけ 立川 で検索!

## 立川を、もっと! やさしい街に

まず、暮らしの基本 **医** **食** **住** に安心を

**医**

立川が多摩26市で1番高い国民健康保険料に!  
もっと安くできるはずです

**立** 川市の約18万市民のうち、国民健康保険に加入している人は約4.1万人で全体の約1/4です。しかし、この国民健康保険料の一人当たりの平均負担料金は、昨年までも多摩地域の26市の中で2番目に高いものでした。それが今年の4月からは3.2%の値上げ予定で、三多摩で1番高くなりそうです。財政的にも豊かなはずの立川市の国保の保険料が高い理由は、明確です。一般財源からの国保への公費補助が少ないからです。多摩地域で三番目に低い公費補助が、保険料が高くなってしまふ大きな要因の1つです。(表参照)

2015年の保険料を他の低い自治体と比較した場合、25歳で所得233万円の単身者では年間約5万6千円も、30歳代で所得433万円の夫婦と子ども1人世帯では年間約14

万円近くも立川市は高くなっている、という専門家の試算もあります。

医療を受けられるか否かは、暮らしの安心にとっての基本です。重い保険料負担が生活を圧迫するだけでなく、健康保険料が払えなくて病気になっても受診を思いとどまる人も多いと言われています。財政的にも豊かな立川市は、保険料をもっと安くすることができるはずですよ。

1人当たり公費補助の自治体比較  
(多摩地域26市、2016年)

1位	国分寺市	62,243円
2位	羽村市	55,389円
3位	府中市	49,736円
?		
24位	立川市	26,398円
25位	東久留米市	22,262円
26位	小金井市	18,405円

小平市国保年金課の資料より

立川市は財政豊かな街。  
全国に1718ある市町村の中でも  
35番目に豊かな自治体です。  
社会保障に予算を投入すれば、  
もっと「やさしい街・立川」  
を実現できるはずですよ。



# 食

## 子どもの食生活が心配です 学校給食のさらなる改善を!

食の安心は暮らしにとって最も大切なことですが、子どもの6人に1人が貧困を強いられ、その影響は食生活にも、「朝食を食べない」「個食」「孤食」など、様々な形で表れています。

また、給食費が払えない子どもが増える中、学校給食の無償化を行う自治体も増えています。立川の中学校では、冷たい仕出し弁当給食のために食べ残しが多く、弁当給食の比率も年々低下しています。

給食費への補助、冷たい弁当から暖かい給食への変更、食育の拡充、地場野菜のさらなる活用、子ども食堂への公的支援など、食のやさしさを追求します。



安倍9条改憲 No! の集会、若者を代表して発言。



緑町公園での元旦お雑煮に参加。

### 山本洋輔 (やまもと・ようすけ) プロフィール

- 1990年 武蔵村山市に生まれる。
- 1999年 稲城市に引越。
- 2006年 立川高校 入学。文化祭のクラスの出し物のリーダーを担当。部活は美術部と山岳部に所属。
- 2009年 立川高校 卒業。立川の予備校で浪人生活を送る中、駅前でビッグイシュー販売者と知り合い、ボランティアを始める。
- 2010年 一橋大学 社会学部 入学。貧困問題を軸としつつもジェンダー、心理学、歴史、貧困、哲学、経済学、政治学等にも触れる。様々な業界を見聞すべくアルバイトは駅員、ホテルスタッフ、コンビニ店員、倉庫作業、試験監督など数多く経験。
- 2014年 一橋大学卒業。外資系コンサルティング会社に就職。官公庁での政策立案や調査事業を手がける他、民間企業の業務改革等にも従事。

趣味：読書、歴史、美術館・博物館めぐり、旅行、映画鑑賞、登山、家庭菜園、街歩き

#### 連絡先

〒190-0011 立川市高松町3-13-1-403号室  
メール: t.yamayou@gmail.com  
TEL:080-5650-7833

#### 会員募集中 カンパにご協力をお願いします

郵便振替口座：00180-4-487440  
口座名：やさしい街 立川をつくる会

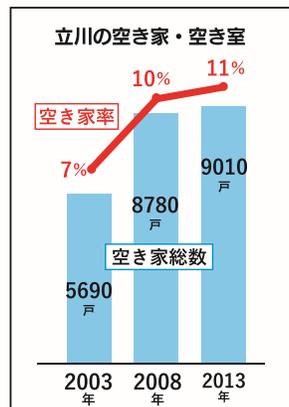
# 住

## 住まいへのやさしさアップ! 空き家・空き室の有効活用を

空き家・空き室は全国的に増加し続けています。立川に至っては2003年には6000戸でしたが、現在は1万戸にも迫る勢いです。にもかかわらず、民間の賃貸住宅の家賃は高いままです。他方で低家賃の市営住宅は平均10倍もの抽選倍率になり、低所得者にとっては狭き門となっています。

市による空き家・空き室の借り上げや家賃補助等を公営住宅に代わる住まいのセーフティネットとして拡充させることが求められています。また、空き家・空き室をNPO活動の拠点やコミュニティスペースとして積極的に活用することも検討されるべきです。

大家さん、入居者、地域の人々、誰にとってもメリットがあるのではないのでしょうか。住まいへのやさしさを通じて誰もが立川を「居場所」だと感じることができるようなまちづくりを提案します。



## やさしい街・立川にチャレンジ!

### 原点は立川高校の授業

私が、生きづらさを抱える人たちのために生きようとして心に誓ったのは、立川高校の時でした。高校生活で生きる意義について悩んでいるときに、授業で南北問題や貧困問題、児童労働問題などについて知り、「これでいいのだろうか」「ほっとけない」「将来は困っている人たちのために生きよう」という思いが込み上げてきました。



### 誰もが不安を抱えている時代

サラリーマンとして社会人生活を始めて4年、私の身の回りでも生きづらさや不安を抱えている人たちが、ますます増えていると感じます。自身の身近な友人でも過労でつぶれてしまった人、派遣社員で給料が伸びない人、精神疾患にかかった人、子どもができたけど入れる保育園がなくて困っている人、ゲイであることをカミングアウトしてくれた人がいます。「不安」や「生きづらさ」という弱者や少数者を連想しがちですが、現代社会においては誰もが多かれ少なかれ「不安」や「生きづらさ」を抱えていると痛感しています。

### 寄りそう気持ちはだれにも負けない

私の志の原点となった立川の地から、不安と孤立に追い込まれずに、誰もが安心して暮らせる社会を作ることには挑戦しようと決意しました。強いリーダーに頼るのではなく、生きづらさを抱えた人に寄り添い、みんなで一緒に変えていくきっかけを作りだす役割を果たしたいと思います。立川市は全国でもトップレベルで財政豊かな自治体です。その豊かさを活かすことで、「もっと!やさしい街・立川」は、可能だと確信しています。一緒に。